

中丹地域で牛コロナウイルス病が発生しています。

中丹地域（綾部市、福知山市、舞鶴市）において、昨年12月から牛コロナウイルス病が発生しています。

この病気は、牛に下痢・血便や呼吸器症状を起こす感染症で、冬季に多発する傾向にあります。

病名は、現在、中華人民共和国で感染が拡大している人の「新型コロナウイルス関連肺炎」と似ていますが、関係はありません。

【発生の状況】

	発生日	発生場所	畜種	概要
1例目	R1.12.26	舞鶴市	乳用牛	搾乳牛約10頭で血便
2例目	R2.1.24	綾部市	乳用牛	哺乳・育成牛約20頭で呼吸器症状、うち1頭が血便
3例目	R2.1.27	福知山市	肉用牛	育成牛5頭で呼吸器症状、うち1頭が血便

牛コロナウイルス病とは

○原因

牛コロナウイルスの感染によります。国内では、1977年に静岡県で発生した成牛の伝染性下痢の症例で初めてウイルスが分離されています。

○感染経路

発症している牛の下痢便や鼻汁・唾液などを介して、経口若しくは経鼻感染により同居牛や他の農場に拡がります。

○症状

水様性の下痢、血便、脱水、泌乳量の減少が主な症状ですが、せき・鼻水などの軽度の呼吸器症状を示すことがあります。

○予防対策

ワクチンが市販されていますが、まずは、農場内への人や車両の立入制限、消毒の徹底などの飼養衛生管理基準を励行してください。